

2014年7月29日(火) 18:00~18:30

【出席者】

常務執行役員 広報部、法務部、知的財産部、情報システム部担当 村松 実

執行役員 経営管理部長 経理財務部担当 登林 浩司

執行役員 開発本部長 松本 健

執行役員 営業本部企画担当 吉川 哲男

執行役員 経理財務部長 田原 永三

ワクチン推進部長 石田 勇人

【2014年度第1四半期決算】

Q/ジェリアのロイヤリティ率が低く見える理由を教えてください。

A/各四半期の決算日時点ではノバルティスから受け取るロイヤリティ額が確定していないが、適正な期間損益計算のため、四半期ごとにその期間に対応したロイヤリティを、会計上、保守的に見積り計上している。なお、実際にノバルティスから受け取る金額と見積り額との差額は、翌四半期に計上される。

Q/開示されているデータが無いので、あくまで推測の話ではあるが、インヴォカナのロイヤリティが少なく見えるが、想定通りに推移しているのか。

A/想定通りに推移している。

Q/田辺製薬販売取扱品について、ジェネリック医薬品と長期収載品それぞれの進捗を教えてください。

A/ジェネリック医薬品と長期収載品の内訳区分を開示していないが、いずれも当初計画通り順調に推移している。

Q/コスト構造改革プロジェクトの実績はどうか。

A/今年度末までに、2012年度と比較して30億円程度のコスト削減につながる施策を実施する計画だが、6月末時点で、購買や各部門のプロセス見直し等順調に進捗していることを確認している。

Q/決算に対するメディカゴの影響は。

A/前回の決算説明会で、年間50億円程度の費用が発生する見込みと説明したが、第1四半期では、主に研究開発費として10億円弱の費用が発生した。

Q/メディカゴの費用が増加しているのに、研究開発費が減少している理由は。

A/MT-1303などの開発費用がそれ以上に減少したため。

Q/MT-1303 の開発費用が減少している理由は。

A/臨床試験が予定より早く進捗しているため。

Q/特別損失の米国 AWP 訴訟和解金とは何か。

A/米国アルファ・テラピュティック社を含む多数の製薬会社が、平均卸売価格として実際の販売価格より高い価格情報を提供したとして、米国の厚生年金基金などの保険団体から訴訟を提起されていたもの。今回、原告との間に和解が成立し、約 1 億円の特別損失を計上した。

【2014 年度業績予想】

Q/業績予想に対する進捗が弱いが大丈夫か。

A/これまでのところ概ね想定線で推移しており、業績予想は変更していない。売上高については、ジェネリック医薬品の影響を受けている長期収載品は下振れリスクがあるが、レミケードなど順調に推移している製品もあり、第 2 四半期には、マイルストーン収入も入る予定である。販売管理費は、第 1 四半期は研究開発費の支出が遅れているが、例年、第 2 四半期は支出が増える傾向も考慮している。

Q/業績予想における原価率(ロイヤリティ除く)が 45.3%で、Q1 の実績が 46.1%と高めに推移しているが、想定通りか。

A/長期収載品へのジェネリック医薬品の影響があり、想定よりやや高めに推移する可能性はあるが、第 2 四半期にはカナグルの新発売等に加え、ロイヤリティ等収入が増加する見込みであり、全体的には原価率は改善し、業績予想値に近づく。

Q/第 2 四半期に予定しているマイルストーン収入の中味について教えて欲しい。

A/個別契約に係わる事項なので、開示することはできない。

【国内営業】

レミケードに対するバイオシミラーの影響

Q/2014 年度の売上予想は、バイオシミラーが、関節リウマチなど 3 つの適応症で 12 月頃発売される前提で、立案された数字か。

A/上記の前提で立案している。

Q/今期は、バイオシミラーより薬価改定の影響が大きいと予想しているのか。

A/その通り。

【その他】

Q／MR を 200～300 人増員するとの記事があったが、これは、コスト構造改革プロジェクトの範囲内と範囲外、いずれで行うのか。

A／糖尿病領域では、MR の専門性ととも訪問回数も重要であるため、配置転換により、徐々に MR を増員していきたい。配置転換であるため、社員数全体が増えることはない。

以上